

評価規準		<ul style="list-style-type: none"> ・自然の物理的な事物や現象について関心、探究心をもち、意欲的にそれらを探究するとともに、態度を身につけようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の物理的な事物や現象に問題を見だし、観測・実験などを行うとともに、物理学的に探究する能力と態度が形成され、基本的な概念・法則を理解し、科学的な自然観をもち、それらを的確に表現でき 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の物理的な事物や現象についての観測・実験の技能を習得するとともに、それらを科学的に探究する方法を身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察・実験などを通して、自然の物理的な事物や現象に対して、基本的な概念や、原理・法則を理解し、身につけている。
序章		<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中で、身近な現象に疑問をもち、科学的な事象として把握し、その因果関係を理解しようとする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の物理的な事物や現象の因果関係を正しく理解できる。 ・有効数字の計算を正しく表現できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発見した事物や現象を科学的に理解するために、観測・実験した結果を量的に把握し、整理し、考察することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然界の物理的な事物や現象を、それまでに学習した知識を用いて理解しようとする。
1章	1節 運動の表し方 2節 力 3節 運動の法則	<ul style="list-style-type: none"> ・日常見慣れているさまざまな運動について、物理的な現象として、動きの規則性やその動きを生じさせている原因を説明しようという意識が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の向きや速度、加速度といった、運動の基礎となる量を理解し、それらを組みあわせて運動を物理学的に理解できる。 ・運動の原因となる力を探る過程を通して運動の法則を理解し、さらに未知の運動を解くことができる。 ・動きを調べる際の基準点を変えても、運動 	<ul style="list-style-type: none"> ・速度、加速度、力を実験器具を使って測定しながら運動を解析し、量的な関係をとらえることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動に関する物理学の量的関係と向きに関する関係を理解し、運動の法則に基づき、さまざまな運動の規則性を見つけることができる。 ・運動の法則に基づき、さまざまな運動を再現することができる。
2章	1節 運動とエネルギー 2節 熱とエネルギー	<ul style="list-style-type: none"> ・ものが運ばれるという事実を物理的な現象としてとらえようとしている。 ・運ばれた量と運ぶ元となる動力源について、さまざまな類似事象を比較し、事象に共通する量的な関係性を探ろうとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ものを楽に運ぶ工夫、道具の使い方などを比較し、仕事をする能力について、位置、運動、熱といった一見異なるエネルギー間に換算できる量的法則性があることを理解できる。 ・仕事・熱・エネルギーの関係について、応用して考察し、報告できる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を観測する際に、速度や力といった直接測定できる量を組みあわせ、運動エネルギーなどの新たな量的関係を類推できる。 ・さまざまな事象に対して、共通する理解の手法を考え出すことができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運動、熱について個々の量的関係を理解できる。 ・運動、熱についての事象に共通するエネルギーというとらえ方を理解できる。

<p>3章 波</p>	<p>1節 波の性質 2節 音と振動</p>	<p>・いろいろな波の現象の存在を理解し、一つの物体の運動とは異なり、振動が伝わる量的な関係を理解しようとしている。</p>	<p>・波動現象を、物理量で表現することができる。 ・波動現象を表すグラフの意味を、実際の現象と照らし合わせて説明できる。 ・音の性質を、物理現象として説明できる。 ・波動現象を再現でき、波動として特徴あるふるまいを指摘でき、グラフでも</p>	<p>・さまざまな波動現象を部分部分の周期的な動きの伝わりとして、視点を部分と全体間を行き来させる観測ができる。 ・空間変化と時間変化を区別できる。</p>	<p>・波長と振動数を用いた式が理解できる。 ・重ねあわせの原理を用いて説明がつくさまざまな現象を、その生じる条件の違いをもとに区別して理解できる。</p>
<p>4章 電気</p>	<p>1節 電流の流れ方 2節 電気の利用</p>	<p>・電気の現象がどのように生じるかに関心を持ち、それらの法則性について、積極的に調べようとしている。</p>	<p>・電気に関する基本的な概念や原理・法則を理解できる。 ・電気の基本的な概念や原理・法則を用いて系統的に考察し表現できる。</p>	<p>・物体の中にある電荷のふるまいについて観測でき、実験を再現できる。 ・電流計、電圧計、検流計などの測定器を正しく使える技能が身についている。</p>	<p>・電気に関する基本的な法則を系統的に理解できる。 ・応用例の交流や電磁波の基本的ふるまいについて知識があり、理解できる。</p>
<p>5章 人間と物理</p>	<p>1節 エネルギーとその利用 2節 物理学が拓く世界</p>	<p>・現代の文明生活に、物理学の発展がどのような影響をもたらしているのかを調べようとしている。</p>	<p>・自然界の現象をエネルギーの変換の観点から理解することができる。 ・現代文明の成果を、エネルギー利用の観点から考察し表現できる。</p>	<p>・放射線の種類を理解し、観察・測定することができる。</p>	<p>・どのような物理学の発展が、具体的にどのような場面で使われているのかを指摘することができる。</p>